



阿南市の花「ひまわり」の花言葉は、「光輝く」です。人権について考え守っていくことが、まさに光り輝く阿南市づくりにつながります。人権教育・啓発コーナー「ひまわり」では、人権に対する思いを掲載していきます。

「共に支え合い、認め合う地域に向けて」

社会福祉法人 阿南淡島会
相談支援事業 淡島学園

相談支援専門員 近藤 泰司 さん

はじめに

近年、障がい者福祉は、法律の施行や制度改正等から急激に進展しており、障がいの範囲も、身体障がい、知的障がい、精神障がい、発達障がい、難病、障がい児等と拡大しています。

私の勤めている、障がい者支援施設「淡島学園」も「一人ひとりの個性を大切に、あたりまえの世界がここに広がる」この言葉のもとで事業を行い、地域に開かれた、風通しの良い施設をめざし取り組んでいます。このような流れの中、淡島学園では、平成19年から、障がいがありながら地域で生活されている方の支援活動として、相談支援事業を始める事になりました。

障がい者相談支援事業とは

地域で生活する障がいのある方や、ご家族が、生活するうえで困っていることや、悩みなどの相談に応じ、自立した日常生活や社会生活が送れるように、総合的・継続的に支援を行うことで、具体的な内容としては、

- ① 福祉に関するサービスや制度の説明、利用の仕方について
 - ② 社会資源の活用や生活力を高める方法について
 - ③ 権利擁護の必要なことについて
 - ④ 各種専門機関の紹介や日中活動・交流の場の情報提供について
- このように、さまざまな相談に相談支援専門員が対応させていただいています。

淡島学園独自の取組も行っています。

誰でも気軽に集まれて、世間話や情報交換のできる場所作りとして「ほんわかカフェ」を、毎月、第2土曜日の午後、淡島学園のスポーツホールおよび和室で行っています。

相談支援事業を通じて

相談業務を始めた頃は知名度も低く、公民館、民生委員さん、小中学校の特別支援学級に関わる先生方などを訪問し啓発活動から始めました。このような活動を通じ、地域の状況が少しずつ見え、相談も増えてきました。

相談依頼の大半が、家族の方や関係機関などで内容も多種多様です。引きこもりで家族の方が疲弊していたり、ゴミ屋敷であったり、自分自身は困っていないが周りが困っているケース。また、障がい者虐待など、自分から声を出せないケースもあります。

地域の体制づくりも進んでいます。が、無縁社会と言われ地縁、血縁が弱くなっている中、世間体なども気にして抱え込みのケースもあります。特に高齢の親御さんの家庭に見られ、頑張ってしまった事故に繋がったりします。まだまだ、福祉サービスの利用が解らなかつたり隠れていたりするケースも多くあると思われます。地域に向き、声を聴くことで、早期対応が可能になると考えられます。

おわりに

障がいをどのようにとらえるのか、いろいろな考えはあると思いますが、私は、その方の個性であり、日常生活を過ごす中で支障を抱えることこそが障がいだと思います。障がいのある方も、ない方も分け隔てなく共に支え合う地域づくり「共生社会の実現」は、障がい者福祉だけでなく、高齢者福祉、保健、医療、教育などさまざまな分野で求められると考えられます。今後も、共に支え合い、認め合う地域の実現をめざして取り組んでいきたいと思えます。



ほんわかカフェの様子

問い合わせは

人権・男女参画課

(☎22-3094)へ

